

藤枝市制  周年記念

チャリティーコンサート

第7回

藤枝マンドリンクラブ
定期演奏会



演奏・主催	藤枝マンドリンクラブ
日	1995年1月22日(日)
時	午後2時開演
会場	藤枝市市民会館ホール
後援	藤枝市教育委員会

《ごあいさつ》

本日は、お忙しい中をご来場いただき誠にありがとうございます。

今日ここ藤枝市民会館ホールにて、第7回定期演奏会を開催できますのも、ひとえに皆様方の暖かいご支援の賜物と存じ、厚く御礼申し上げます。

「音楽は人と人とを結ぶもの」というベートーベンの言葉がございます。作曲者がいて、演奏者がいて、皆様のように聴いていただける方々がいて、はじめて音楽は完成します。私達の日頃の活動の成果として、作曲者の曲への想いが皆様にはほんの一部でも通じたならば、そして、もし皆様がそれにより幸福な気持ちになっていただけたなら、それは私達の大きな理想であり、願いであります。今日もそんな願いを胸に、精一杯演奏させていただきますので、どうぞ最後までごゆっくりお聴きください。

尚、今回の定期演奏会では入場料は頂戴しませんが、チャリティーコンサートと致しました。と申しますのは、今回藤枝市制40周年記念事業の一つに加えていただきましたので、ご来場下さった皆様からおいくらでも、コイン一枚でもご好意を頂戴し、それは全額藤枝市社会福祉協議会の善意銀行へ寄附させていただくことにしました。会場受付の前に募金箱を置いてありますのでそれにお入れください。

尚、この募金はあくまでも任意ですので、誤解なさらませぬようお願い致します。

本日は、藤枝市民吹奏楽団の皆様と広幡公民館マンドリン・ギター講座の皆様にご協力いただきました。また、藤枝市民吹奏楽団様と大井川吹奏楽団様には貴重な楽器を沢山お借りしました。皆様本当に有難うございました。

《藤枝マンドリンクラブ この一年の歩み》

1994年

2月13日 第6回定期演奏会 (藤枝エミナース)

3月13日 「第3回静岡県マンドリン・フェスティバル」に有志が参加
(富士市文化会館ロゼシアター中ホール)

5月～ 1995年2月まで毎月2回マンドリン・ギター講座を開講
(広幡公民館)

8月28日 焼津南ロータリークラブ様の「夏の家族会」に出演 (焼津/松風閣)

9月 4日 「藤枝市民コンサート」に参加 (市民会館ホール)

10日 「ふれ愛ジョイントコンサート」に参加 (青島南公民館)

11月27日 「フェスタ広幡」に参加 (広幡公民館)

12月 4日 「藤枝市民文化祭」に参加 (市民会館ホール)

♪ プログラム ♪

【第1部】

- 丘を越えて (古賀政男)
 マンドリニストの行進曲 (E.Mezzacapo)
 フローレンスの思い出 (G.Bellenghi)
 祭 (Q.Fabbri)

【第2部】

- オリーブの首飾り (C.Morgan)
 宮崎駿アニメメドレー (久石譲)
 天空の城ラピュタ
 「風の谷のナウシカ」より 風の伝説
 // 遠い日々
 「魔女の宅急便」より 風の丘
 踊る子猫・そり滑り (L.Anderson)
 森の水車・おもちゃの兵隊の行進
 (アイルハム・イェル)
 ナイチンゲールとバラ (中村弘明)

曲目紹介

祭 Sagra, Quadri Campestri Q. Fabbri (ファブリ) 作曲
 中野二郎編曲

- I La Notte e L'Aurora (夜と黎明)
 II Il Canto dei Mietitori (取入れする人々の歌)
 III Le Campane (鐘)
 IV Preghiera (祈り)
 V Tarantella (タランテラ)

「祭」は、元来吹奏楽の曲である。この曲は、祭りの時、鐘を鳴らす人々の歌、祈り、そして踊る人々の歌をまとめた。曲の構成は、夜と黎明の対比、鐘の音、祈りの静けさ、そして踊りの盛り上がりという流れになっている。演奏の際は、楽器の調音や演奏者の動きに注意し、祭りの雰囲気を表現することが大切である。

あなたもマンドリンを弾いてみませんか

私達藤枝マンドリンクラブでは会員を募集しています。パートはマンドリンの他にマンダラ、ギター等もあります。経験者はもちろん、初心者も大歓迎です。

- 練習日 : 毎週木曜日 (よる7:00~9:00)
 練習場所 : 藤枝市広幡公民館
 連絡先 : 643-7588 (鷺山)

マンドリン100年の事

マンドリンもギターもそのルーツはエジプトで生まれた弦楽器古代リュートに行き着きます。
Almond 梨の実を縦に半分に切った切り口のような形をしていることからマンドリンという名がついたという説があります。

当時のマンドリンはガット（羊腸）弦が4本か6本の単弦で鳥の羽や亀甲の小片で弾いていたようです。その当時のマンドリンにヴィヴァルディはソナタや協奏曲を書き、モーツァルトはオペラ「ドン・ジョバンニ」にマンドリンを主役に持たせてセレナーデを歌わせました。またベートーベンもマンドリンの手ほどきを受け、チェンバロを伴奏にさせての独奏曲を4曲書いています。18世紀にはイタリア各地でいろいろなマンドリンが発達しましたが、現在あるようなマンドリンの礎を作ったのはナポリ生まれの楽器製作家バスクアーレ・ピナッチャ(1806~1882)でした。ガット弦をスチール製のものとし、4組みの複弦にしました。調律をバイオリンと同じにしフレットの数も増やしました。ここに独特のトレモロ奏法が可能で音域が広がった表現力のあるマンドリンに生まれ変わることができました。

ピナッチャの甥のカルロ・ムニエル(1859~1911)はマンドリンの父と呼ばれますが、彼は演奏者として活躍するばかりでなく、その技巧を研究し、現在あるマンドリン合奏の母体をも編み出してくれました。ムニエルに続いて数々の作曲家が輩出しマンドリン合奏が盛んになるとマンドリンは国境を越え、フランス、ベルギー、オランダ、イギリスへと渡って広まっていきました。

そんな世界的な広がりを見せているおり、音楽家四電訥治(しかま・とつじ)氏がイギリスからマンドリンを手にいれ、明治27年8月に開催された日清戦争の戦意高揚のための演奏会でハーブ、バイオリンとのトリオで、初めて演奏したと当時の音楽誌に掲載されています。

明治34年になるとチェロ奏者であった比留間賢八氏が2度目の海外研修からの帰国に際し洋楽普及のためという明確な目的意識のためにマンドリンの演奏法を習得してきてその普及に努めてくれました。当時の門下生には美術の藤田綱治、文学の萩原朔太郎、音楽の斎藤秀雄等多彩な顔ぶれが目につきます。当時男爵であった武井守成氏は自らオーストラリア・ソフィア・タキを組織され大正・昭和期の日本でのマンドリン隆盛の中心的役割りを果たされました。それは演奏活動による普及にとどまらず、専門誌や研究書の発行、さらに自ら作曲するとともに作曲コンクールを主催する等多岐にわたるものでした。戦争をはさみ中断したマンドリン界でしたが、戦後は戦場や大学サークルを中心に盛り返し、鈴木静一、服部正、中野二郎各氏の作曲啓蒙活動もあり今日を迎えています。今マンドリンは日本を第二の故郷にしたと言っても言い過ぎではないと思います。

(参考：日本経済新聞平成6年8月19日文化欄掲載記事)

<メンバー紹介>

指揮	嶋崎 治利(岡出山)		
ナレーション	*森田 京子		
ソプラノ	*桑原 貞澄		
マンドリン	渋谷 一子(藤岡)	鈴木 和美(音羽町)	鈴木 文子(焼津)
	堀江 典子(平島)	増田 和美(焼津)	村松 美雪(藤岡)
	望月すゞ代(大洲)	鷺山 正二(旭ヶ丘)	鷺山美知子(旭ヶ丘)
	*北村寿摩子	*野崎 浩孝	*深谷 明弘
	☆池田東志子	☆池谷 恭江	☆石田 和子
	☆片岡 富江	☆高宮五百子	
マンドラ	池ヶ谷英伸(静岡)	片山千恵子(下当間)	木藤 裕子(上当間)
	小沼久美子(緑町)	杉山 樹美(高洲)	服部 正子(平島)
	*興津 信雄	*佐野 仁子	
マンドセロ	米村 文子(上当間)	*畑 恭介	
ギター	中谷 秀治(志太)	長谷川雅美(焼津)	服部 誠(平島)
	堀井 謙二(堀ノ内)	*佐野 勝美	*松村 文雄
	*宮川 久夫		
ベース	釜田 博司(音羽町)		
フルート	栗田由美子(田中)		
クラリネット	*安藤 香織		
パーカッション	斉藤はるみ(G, 駿河台)	*渋谷裕紀子	
司会	*安達由美子		

* 賛助出演の皆様

☆ 広幡公民館マンドリン講座の皆様